



姉妹都市提携 40周年

江別市と米国グレシヤム市は今年で姉妹都市提携 40周年を迎えます。今月は両市の交流のあゆみなどを紹介し、訪問団に参加する市民を募集します(左ページ最下段を参照)。

江別市の姉妹都市 オレゴン州グレシヤム市

アメリカ合衆国の北西側、太平洋に面したオレゴン州にあるグレシヤム市。人口は約11万人で、オレゴン州で最も大きな街であるポートランド市のベックタウンとして、その人口は年々増加しています。

周りには、名峰マウントフッドやコロンビア川渓谷、マルトノマ滝などの豊かな自然環境に恵まれ、広大で美しい風景が広がっています。

産業は、フルーツや野菜、花などの栽培による近郊型農業に加え、マイクロエレクトロニクスや航空機産業などのハイテク産業や流通業が発展しています。

姉妹都市提携盟約の調印に至るまで

グレシヤム市と江別市が姉妹都市となったきっかけは、ポートランド市と札幌市の姉妹都市交流で、通訳をしていたグレシヤム市出身の日系二世ヘンリー加藤氏が江別を訪れたこと。両市の地理的環境や街並みが似ていることなどを加藤氏がグレシヤム市長に報告し、姉妹都市提携締結の意向が強まりました。

その後、当時の札幌市長を通じて、姉妹都市提携の打診

を受け、相互訪問・調査を経て、昭和52年5月20日にグレシヤム市長を迎え、江別市で姉妹都市提携の盟約に調印しました。



▲コロンビア川渓谷



▲マルトノマ滝



▲マウントフッド

両市の交流

昭和52年の姉妹都市提携締結以来、5年ごとの節目などに、両市長をはじめとする訪問団の相互訪問を行っています。

相互訪問では、地元の企業や施設の視察、記念祝賀会などを行い、交流を深めています。

教育・文化交流

1. 中学生・高校生の相互派遣交流事業

両市の生徒が毎年、現地でホームステイをしながら地元の学校に通い、学校生活や日常生活を体験しています。

同世代の外国人や外国文化と直に触れ合う機会となり、交流事業への参加をきっかけに、国際感覚を身につけ、その後の学校生活や将来の職業、生活にとって大きな経験となることから、有意義な交流となっています。

2. 姉妹校の提携

幼稚園と小学校から大学までの江別市内7校で、姉妹校の提携を結んでいます。

▼提携30周年グレシャム市訪問



▲姉妹都市提携の盟約書

▼グレシャム市長を訪問した市内の高校生



▲グレシャム市を訪問した市内の中学生

▼相互派遣交流事業

	中学生交流事業	高校生交流事業
派遣	平成7年度から毎年12月に生徒6名を10日間派遣(延べ156名を派遣)	昭和53年度から毎年1~2月に生徒3~4名を約1か月間派遣(延べ83名を派遣)
受入	平成9年度から毎年2月に生徒6名を10日間受け入れ(延べ168名を受け入れ)	昭和54年度から毎年6~7月に生徒3~4名を約1か月間受け入れ(延べ55名を受け入れ)

経済交流

平成17年5月に江別市長がグレシャム市長を訪問した際、両市が共同声明を発表し、交流目標の一つに経済交流の推進を盛り込みました。

グレシャム市の特産のボイドコーヒーやジャムなどを江別の企業が輸入しており、商業施設EBRI(エブリ)内のアンテナショップGET'S(ゲッツ)で販売しています。



江別アンテナショップGET'S(ゲッツ)
商業施設EBRI(エブリ)の中にある観光案内機能を備えたアンテナショップです。
(東野幌町3-3 ☎398-9570)

グレシャム市の特産「ボイドコーヒー」
グレシャム市に本社を置くボイドコーヒー
カンパニーは、100余年の歴史を誇ります。



グレシャム市 訪問団参加者募集

姉妹都市提携40周年を記念し、グレシャム市を訪問する市民を募集します。

江別市長をはじめとする訪問団の一員として、現地で予定されている記念行事などに参加し、グレシャム市民との交流を深めます。

訪問期間：11月5日(日)～11月10日(金)(予定)

対象：高校生以上の江別市民(英語で簡単なあいさつや会話ができる健康な方)
募集人数：若干名(応募者多数の場合は書類選考を行う場合があります)

旅費：25～30万円(自己負担)
※別途、現地での飲食代、雑費が必要です

その他：渡航中は、原則訪問団と共に行動します

申込方法：申込書に必要事項を記入し、事務局に郵送
※申込書は市ホームページおよび事務局で配布中
募集期間：5月8日(月)～5月22日(月)※当日消印有効

【詳細】江別市都市提携委員会事務局(江別市役所秘書課)
☎381・1008

